

西部クリーンセンターの跡地活用を問う！



登見 常規議員

問 南部クリーンセンターへ廃棄物関連施設を集約して整備する案が示されたが、西部クリーンセンターの跡地については、どのような活用策を考えているのか。

市長 当センター跡地は間口が狭小であることなどから、宅地分譲や企業誘致などの活用は困難な土地である。その活用については地元の前原地区環境保全協議会から足利工業大学の活用が最適との提言があり、また同大学からも無償で譲り受けたいとの要望があった。大学の利用目的が本市の環境政策に整合し、公共性の高い事業が見込めることなどから、これらを総合的に勘案し、同大学へ無償で譲渡したいと考えている。



▲現在の西部クリーンセンター跡地

◆公設地方卸売市場事業

問 同事業特別会計への赤字補填的な一般会計からの繰出金は避けるべきと考えるがどうか。

産業観光部長 基本的には事業者が経費を負担すべきだが、本事業は公共性の高い事業であり、市の負担はやむを得ない。市の負担割合については、総務省で定める繰出基準を考慮して算定しているが、赤字補填的な繰出金は避けるべきと考えている。市と事業者の双方で、健全な市場運営をするための方策を協議していきたい。

高すぎる介護保険料の減免制度の確立を！



尾関 栄子議員

問 平成27年度から平成29年度までの目標プラン21第6期計画で介護保険料の引き上げが明らかになった。年金生活の高齢者は既に限界を超えており、低所得者の減免制度をつくるべきではないか。

福祉部長 保険給付費は年々増加しているが、保険料の急激な増加を抑えるため、基金を取り崩し、県内の平均伸び率より低く抑えた。また、保険料第1段階の方へは、新たに公費を投入して軽減を行う。さらに、低所得者の保険料は国の基準割合よりも低いなど低所得者へ配慮しているため、それ以上に減免措置を行う必要はないものと考えている。



◆観光と地域経済の活性化

問 大日西・中央土地区画整理事業は住民の中に反対者が多かったが、再開するに当たって話し合いは行われたのか。事業を進める上で住民の合意は大前提ではないのか。

都市建設部長 ことし1月に大日西・中央両地区とも説明会を行い、事業促進の意見や今後の進め方について多くの質問をいただいた。今後は地元の方々にも事業の趣旨を丁寧に説明し、御理解をいただきながら事業を進めていきたい。

がん検診受診券の送付継続を！



金子 裕美議員

問 本市では一定年齢以上の方に自己負担が少なく検診が受けられる受診券を送付している。3年間使用しないと、翌年から送付停止となるが、周知や啓発のためにも送付を継続すべきではないか。

福祉部長 受診券の使用がない方については、職場検診等で受診していると考えられることから受診券の送付は行っていないが、広報紙やチラシで周知し、希望者には受診券を送付している。がんの早期発見・早期治療につなげるためにも、受診券の送付方法など効果的な周知方法について検討していきたい。

◆市民会館

問 市民会館は開館後約50年が経過し、老朽化や設備の古さが目立つ。建て直しや大規模改修などの再整備を平成33年に迎える市制100周年事業として行つてはどうか。

市長 市制100周年という大きな節目を迎え、市民の理解を得る上でも一つのきっかけになると考えられる。一方で、2020年には東京オリンピックを控え、建築資材の高騰や建設業界の人手不足という経済情勢もある。公共施設全体のあり方や施設の更新の時期などについても、引き続きさまざまな角度から検討していきたい。



▲足利市民会館

中学校に早期の
エアコン設置を！



西田 智男
議員

問 小学校のエアコンは平成26年9月に設置されたが、中学校にはいまだ設置されていない。一刻も早く設置すべきと考えるが、今後の予定を聞きたい。

市長 中学校のエアコン設置については、平成26年度の国庫補助事業の採択が見送られていたが、文部科学省等の関係機関に積極的な要望活動を展開し、第1次補正予算で事業の内定を得ることができた。ことし8月までに設置工事を完了し、2学期から使用できるよう、入札等の事務を早急に進めていきたい。



▲小学校に設置されたエアコン

◆公設市場のあり方

問 市場のあり方については平成26年第1回定例会等で質問し、民営化や廃止等も含めて検討するとの答弁があった。その後の検討状況と今後の考えを聞きたい。

産業観光部長

庁内検討委員会で検討を進めてきた中、平成26年11月に市場関係者及び市が一堂に会し、民営化する方向で意見が統一された。その後平成27年1月に市場関係者から民営化の提言と施設整備等における市の支援についての要望書が提出された。今後は、要望事項の細部についての確認を行い、民営化に向けて積極的に取り組んでいきたい。

勇退議員のあゆみ

第23期をもって勇退される議員が、最終日に本会議場であいさつを行いました



石川 博康 議員



常見 登 議員



河内 利雄 議員

昭和62年の初当選以来28年の議員生活を続けてまいりましたが、7期を節目に退任することといたしました。長きにわたり関係各位から御指導、御鞭撻を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。議員生活の中で特に印象深いことは、小俣地区へ最終処分場が計画された際、地元議員として東奔西走し、地域住民の方々の御理解、御協力により無事完成に至ったこととあります。また、今後海外の学者がこぞって評価する江戸時代の学問の原点である足利学校が、史実の発信力を一層高め、日本遺産認定、さらには世界遺産登録の実現に向け邁進されますよう心より希望するものであります。足利市の限らない繁栄を祈念し、挨拶とさせていただきます。

今期をもちまして退任することになりましたが、この間、私の議員活動を支えていただいた多くの皆様に心より厚く感謝申し上げます。昭和62年の当選以来28年の議員生活を思い起こすと、さまざまなる出来事がありました。足利銀行が一時国有化された際には、市民生活への影響を最小限にとどめるため、市長や市職員と一緒に奮闘するなど多くの経験を積ませていただきました。本市を取り巻く環境は相変わらず厳しい状況でありますが、このようなときこそ執行機関と議会が一体となって取り組むべきと思っております。本市の限らない発展と皆様の御多幸を祈念申し上げ、お別れの挨拶とさせていただきます。

昭和62年に石川議員、常見議員とともに当選し、いろいろな経験をしてまいりました。多くの方から激励を受け、そのおかげで奮起し、議員活動ができたことを御礼申し上げます。そうした経験をさせてくれた方々に、またこれまで私にかかわった全ての方に感謝し、重ねてお礼を申し上げます。今はただただ足利市の発展と皆様のさらなる御活躍を祈念いたしております。NHK連続テレビ小説のマッサンの話ではありませんが、長きにわたる議員生活をウイスキーのように凝縮した一言とさせていただきます。挨拶いたします。

